

- 管内 留萌管内
- 分類 防犯教室 安全マップ 不審者対応訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 児童が主体となって情報を収集し、安全マップを作成
- 家庭や地域との情報共有や実際の児童の登下校に安全マップを活用

取組の実際

ねらい

- 児童の主体的な取組や家庭及び地域との協力により、児童の危険に対する意識や判断力を高めるとともに、地域全体で児童の安全を確保する意識を高める。

内容

1 児童の主体的な取組を通じた安全マップの作成

児童が、教職員や他の児童、保護者や地域住民から聞き取りをするなどして、情報を集めながら安全マップを作成した。



【協力して安全マップを作成している様子】

- 次の内容を具体的に分かりやすく記載しました。
- ・注意する必要がある場所の具体
（暗い道が多い、人通りが少ない、信号機がないなど）
 - ・危険な行為の具体
（坂道で走らない、川に近づかない、歩道橋から身を乗り出さないなど）
 - ・不審者に遭遇したときの対処方法
（大声で叫ぶ、家や警察、学校に知らせるなど）

2 安全マップの効果的な活用

安全教育の一層の充実を目指し、次の取組を推進した。

- ・全校児童に内容を説明
- ・保護者及び地域住民に周知
- ・集団下校で安全マップに示された場所を実際に訪問して確認

また、今後、取組の更なる充実が図られるよう、次の取組を予定している。

- ・来年度、新たな学校体制で内容を確認し、情報を更新
- ・児童会の生活委員会などに取組を位置付け、児童の主体的な取組として推進



【児童が作成した安全マップ】

成果と課題

- 通学路に潜む危険や対処法を知ること、実際の場所を見る体験などを通して、児童が自分自身の身を守るための行動について考えることができた。
- 作成の段階からより多くの児童が関わることができるよう、作成する地域や情報収集する相手を分担するなどの工夫をする必要がある。